



2022年4月27日

各位

会社名 株式会社エルテス  
代表者名 代表取締役社長 菅原 貴弘  
(コード番号:3967 東証グロース)  
問合せ先 経営戦略本部長 佐藤 哲朗  
(TEL. 03-6550-9280)

**(訂正)**

**「通期個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ」の一部訂正に関するお知らせ**

当社は、2022年4月13日付けに公表いたしました「通期個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ」の記載事項の一部に訂正すべき事項がございましたので、お詫び申し上げますとともに、下記のとおりに訂正いたします。なお、訂正箇所につきましては、下線を付して表示しております。

記

1. 訂正の内容

上記適時開示の公表と同日に公表しておりました「2022年度2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に誤りがあることが判明し、本適時開示についても、あわせて訂正が必要なことが判明したものであります。なお、今回の訂正による連結貸借対照表、連結損益計算書への影響はありません。

2. 訂正の箇所

「通期個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ」

1. 2022年2月期通期個別業績と前期実績値との差異(2021年3月1日～2022年2月28日)
2. 前期実績値との差異理由

連結子会社への貸倒引当金戻入額が修正になったことによる訂正になります。

【訂正前】

1. 2022年2月期通期個別業績と前期実績値との差異(2021年3月1日～2022年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A)	1,708	△287	△298	△468	△90.33
当期実績(B)	1,837	61	79	<u>114</u>	<u>21.92</u>
増減額(B)－(A)	129	348	378	<u>583</u>	
増減率(%)	7.6	-	-	-	

2. 前期実績値との差異理由

売上高につきましては、デジタルリスク事業の主力となるソーシャルリスクサービスの案件が増加したこと、さらに内部脅威検知サービスの受注が堅調に推移したことにより、売上高は増加いたしました。

営業利益については売上の増加に加え、継続してきた体制見直しや内製化など提供コストの削減の取り組みが奏功し前期実績を上回りました。

経常利益につきましては上記営業利益の増加に加え、投資事業組合運用益が発生したため、前期実績を上回りました。

当期純利益については、当社が保有する投資有価証券のうち、簿価に比べて実質価格が著しく下落したのものについて、2022年2月期第4四半期において、減損処理による投資有価証券評価損90百万円を特別損失として計上したものの、連結子会社への貸倒引当金戻入額94百万円が発生したため、前期実績を上回りました。

【訂正後】

1. 2022年2月期通期個別業績と前期実績値との差異(2021年3月1日～2022年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A)	1,708	△287	△298	△468	△90.33
当期実績(B)	1,837	61	79	<u>99</u>	<u>19.13</u>
増減額(B)－(A)	129	348	378	<u>568</u>	
増減率(%)	7.6	-	-	-	

3. 前期実績値との差異理由

売上高につきましては、デジタルリスク事業の主力となるソーシャルリスクサービスの案件が増加したこと、さらに

内部脅威検知サービスの受注が堅調に推移したことにより、売上高は増加いたしました。

営業利益については売上の増加に加え、継続してきた体制見直しや内製化など提供コストの削減の取り組みが奏功し前期実績を上回りました。

経常利益につきましては上記営業利益の増加に加え、投資事業組合運用益が発生したため、前期実績を上回りました。

当期純利益については、当社が保有する投資有価証券のうち、簿価に比べて実質価額が著しく下落したものについて、2022年2月期第4四半期において、減損処理による投資有価証券評価損 90 百万円を特別損失として計上したものの、連結子会社への貸倒引当金戻入額 79 万円が発生したため、前期実績を上回りました。

以上